

## 令和4年度 第2回 赤磐市地域公共交通会議議事録

日時：令和4年7月22日（金） 10：00～12：00

会場：赤磐市役所 3階協議会室

### 1. 開会

前回会議内容の確認

会長挨拶

### 2. 報告事項

#### (1) 令和3年度赤磐市バス利用実績について

◇資料説明：事務局

◇質疑応答・意見

会 長：かなり細かく説明いただいた。その中のご意見、ご質問、お気づきの点等ございましたら挙手にてお願いいたします。私から少し質問させていただく。定期利用されていた方がいなくなった路線について、本当は乗りたいが乗れないというような、本当に困っておられる方をどうやって把握していくか、案があれば教えていただきたい。

事 務 局：今年度以降に新しい計画を策定させていただくが、その際に市民の方々へのアンケートや、事業者、地域の方々に向けてヒアリングをさせていただき、そのようなところからお声を汲み上げていきたいと思う。また、他部署からも情報提供いただく。

会 長：本当は乗りたいが、目的が合わない等様々な理由があって実は使えないといった方を、民生委員の方々や別の部署で把握している場合があると思う。計画を作る際のアンケートだけでなく、日常的にそういった情報を積極的に収集していただきたい。他自治体でも急に利用者が減少することがあり、その要因は一番のヘビーユーザーが施設へ入所されたというような話はよく聞く。ただ、そうなるとこの路線はすぐなくなるという話ではなく、新しい利用者を取り込んでいけるかどうかである。乗りにくい人を無理矢理乗せるのではなく、本当は乗りたいが時刻表が合わない、目的地が合わない等の理由で利用できない方もいらっしゃると思う。ぜひ日常的に新しい利用者を探していただければと思う。

委 員：デマンドバスのそれぞれの時間ごとの利用を見させて頂いている。午後の利用が少ないが、河原屋線は午後もそれなりの利用がある。河原屋線と他の路線で違いがあれば教えていただきたい。

事 務 局：河原屋線の午後利用が多い理由とは逆の回答にはなるが、その他の路線が午後の利用が少ない理由は、病院や買い物に午前中に行かれる方が多いためである。令和4年4月1日からの仁美地域から周匝方面へ延伸させていただくときも、これを踏まえて運行させて頂いている。河原屋線がなぜ午後の利用が多いのかに関しては分析できておらず、申し訳な

い。もう少し深掘りしていきたいと思う。

- 委員：アンケート等で分かれば教えていただきたいと思う。
- 会長：吉井地域の西勢実線、中勢実線、暮田・平山線では、利用者1人当たりの1便利用経費が22,866円であり、高すぎるという話が当然出てくると思う。なぜこんなに高いのか、あるいは、どうすれば1人当たりの経費を下げるができるか。同じ吉井地域でも、隣の地域では6,400円だが、おそらくこれは利用者数の違いだと思う。端的に言えば、どうやって利用者を増やしていくのかを考えることになるかと思う。両地域で経費自体はそれほど大きく変わっていない。経費の問題というよりも利用が少ないこと、それは人が少ないからか、利用する意識が集落や路線によって違うのか、あるいは年代層が違って皆さん車で移動できているのか、一体何が起こっていてこのような違いがあるのか。同じ吉井地域の中でこれだけ違うと困ったと思う。
- 委員：おっしゃるとおり、とても頭が痛い状況である。仁美地域は高齢化率がものすごく高いので、利用者が少ないという形になっていると思う。利用者数で割るとこのような金額になるが、無理矢理利用してくれとは言いつらい。頼りにしている方もいらっしゃるの、料金を上げるということもできないと思う。利用者が少ないため耳も頭も痛い。
- 事務局：リリース前だが、仁美地域のデマンドバスを延伸させているので、次回くらいの市の広報にデマンドバス利用者のインタビューを載せる予定である。おっしゃっていただいたように、利用されている方はとてもありがたいとおっしゃってくださっている。利用者の方で、今度は友達を誘って一緒に乗りたい等のお声を頂いているので、地道に周知して口コミで広げて頂けるようにしたいと思う。またこちらの会議の方にも今後情報提供させていただきたいと思う。
- 委員：民生委員の方々や区長会にも働きかけてPRできたらと思う。
- 会長：地域の移動を支えるための交通システムなので、やめる・やめないといった議論はありえない話だが、あまりにも極端な数字が出ると他の地域の人から見てこれは何だという話になろうかと思う。今おっしゃっていただいた中にいくつもヒントがあったと思う。1人で乗るのではなく2人で乗るといふように行動を集約してもらうことを考えてはどうか。あるいは、本当は行きたい目的地に行けていないのではないか。すでに路線を変えるということはやっていただいていると思うが、一発で行けなければ乗らないということがあると思う。そのあたりは工夫の余地があると思う。もうひとつは、1回もバスに乗ったことない人には乗ることに対してハードルが高いため、口コミ作戦になるかもしれないが、とにかく誰かと1回乗ってみてもらうためのPRを地元の区長さん等と一緒に考えていくことが非常に大事ではないかと思う。高齢化率が高いのはもちろんそうだが、それを言っていたら来年はもっと高く、どんどん高くなっていく。やはり、高齢化していても移動できるための手段を提供することをやっているの、できるだけ歩目を踏み出せるようなお手伝いをしていただくと良いかと思う。
- 委員：先ほど会長がおっしゃったことについてだが、1便あたりの平均輸送人員は両地域そう変わらない。そうすると、この地域の方が現在どのような移動をされているか。移動の絶対数が多いのか少ないのか。移動の絶対数が違うとすると他の地域と比較できないと思う。
- 会長：それはおそらく人口あたりの利用者数を見ることで分かると思う。人口

100人当たりの利用者数を見ていただくところからスタートかと思う。その上で、相乗りは効率を高めるだけでなく、誰かと一緒にお出かけをする楽しさを提供できる。行かなければならないから移動するのではなく、生活に潤いを与えるような視点、楽しみながら移動をする視点を入れていただきたい。ぜひ裾野を広げていただきたい。

委員：今年度の利用実績の速報値があれば教えていただきたい。

事務局：速報値はまだ出ていないが、現在、地域公共交通計画策定に向けて公共交通関係者へヒアリングを行っている中で、令和4年は熊山地域の路線で定期券の利用が増えたということが分かっている。

先ほどのデマンドバスの話になるが、仁美地域では延伸した先の周匝方面への移動がほとんどといった傾向が見られ、路線再編した効果が出てきていると思う。他の路線については、山陽団地線等、順調に推移している。

## (2) アクセシビリティマップによる分析結果について

◇資料説明：事務局

◇質疑応答・意見

会長：非常に作業量の多い分析をしていただいたと思う。それによって、実は我々が提供している公共交通では、行けるけれど帰って来られない地域や、隣の地区の人だったら行ってすぐ帰って来られるのに我々は数時間余分にかかる地区、お隣は車で行っているから2時間で帰ってくるのに私はバスで行くから半日かかるといった、色々な問題が出てきていることが分かったかと思う。県内で色々な公共交通会議に出ているが、ここまで細かい分析をやっているところがないので、非常に重要な成果を見せて頂いたと思う。皆さま方からご意見やご質問はあるか。真剣に読んだら疲れる資料なので、短時間で分かるように説明していただいただけでもすごいと思う。

委員：先ほど話にあがった多賀の区長をしている。56ページのバス停から400m圏外のところでデマンドの話題があったが、区長として多賀では交通機関の要望としては具体的に聞いていない。他のルートで交通機関を充実させてほしいという要望が市役所に出ているか。それとも私がまとめていないからなのか、そもそも需要がないのか、分かるか。

事務局：要望書としては出てきていないが、東軽部に入ってきてもらえないか、多賀の奥へ入ってきてもらえないかということは聞いている。

委員：現状は知り合いや身内の人に助けてもらっているということか。以前、将来的にデマンドを採用していただけるかという話はしたが、私の方に話題が入っていないなかったため、デマンド導入を検討してほしいという声があるのか確認したかった。

会長：地元の人でも長年そういう状況でずっと住んでいると、ないのが当たり前の生活をしているので、要望を出して良いものか分からなくなってくると思う。分析によって地元の人が気付いていない課題が見えてきて非常に良かったと思う。次年度の計画策定の際にこれも是非とも生かし、今回ここで上がってきた問題点は少なくとも改善できるように、是非よろしくをお願いします。

### 3. 協議事項

#### (1) 赤磐市地域公共交通計画策定に向けた市民アンケートの内容及びスケジュールについて

◇資料説明：事務局

◇質疑応答・意見

会 長：最近の他自治体の公共交通関係の計画の中では、MaaS や定額で乗り放題の公共交通等、さまざまなものが提案されている。今回の調査では、そのあたりは意識されているというイメージで良いか。新しいサービス、新しい取り組みのところで ICT 活用等の表現で止まっているので、その内容について具体的にどのようなものを考えているか。

事務局：今回は項目のみ挙げており、実際どのようなアンケート調査をお配りするかイメージが湧きにくかったかと思う。次回会議では、どのようなアンケート調査票か見ていただける。先ほど会長がおっしゃったように、MaaS やサブスクのようなデジタル化や ICT の活用を導入したいと考えている。例えば AI を使った予約システムの構築など費用のかかるものもあるが、そのようなこともできるようになれば、市民の方々の利便性が向上するかと思う。口頭での説明では分かりづらいところがあり申し訳ない。

会 長：細かい話は次回お聞きできればと思う。そもそもの、調査時期や配布数のあたりについてご質問はあるか。10月に3,500部配布する調査を行うこと、事務局でこのアンケート調査について今後検討していくということについて、承認いただけるかお諮りしたいと思う。これは次年度作成する計画づくりの一番根本になるものだと思うので、やらなければいけないのは間違いない。事務局でこのアンケート調査について今後検討していくということについて、承認いただける方は挙手にて意思表示をお願いいたします。

(一同挙手)

会 長：では、承認ということで、事務局で検討を進めてください。

#### (2) 赤磐市 自家用有償旅客運送の登録更新の申請について

◇資料説明：事務局

◇質疑応答・意見

会 長：これは更新をしておかないと突然バスが止まってしまうので、根本的に問題がなければ是非賛成を頂きたい案件である。昨年度から法律の改正によって一部文言の修正が入っているというご説明であった。何かご意見やご質問はあるか。この案件につきまして承認いただける方は挙手にて意思表示をお願いいたします。

(一同挙手)

会 長：では、承認ということで、事務局で手続きを進めてください。

(3) 美咲町 自家用有償旅客運送の登録更新の申請について

◇資料説明：事務局

◇質疑応答・意見

会 長：これも承認いただかないと路線が止まるが、何かご意見・ご質問やお気づきの点があるか。68 ページの時刻表で、津山行き of 1 便だけ色がついているが、これは何か変更があったということか。それとも日曜・祝日は運休するというを示しているのか。

事 務 局：日曜・祝日は運休ということで着色している。

会 長：では今後ここが変更されるわけではないということか。もうひとつ、負担金を出しているということだが、どのくらい負担しているのか。

事 務 局：事業費について、津山市は 13%、赤磐市は 22%、美咲町は 65%という負担割合である。令和 3 年度の実績では、2,612,060 円を当市が負担している。総合計としては 11,873,000 円を全市町で負担している。

会 長：負担割合は路線長によって決まるのか。それとも乗車数で決まるのか。

事 務 局：負担割合については、年に 2 回、6 月と 10 月の 2 週間程度の利用実績に基づいて、それぞれの市町の方がどれだけ利用されているかを集計し、按分している。

会 長：要するに赤磐市内からたくさんの方が使っており、主に高校生が通学するために使っているのかと思う。それなりに利用実績があるということだと思う。この更新手続きを進めることにつきまして、承認いただける方は挙手にて意思表示をよろしく願いいたします。

(一同挙手)

会 長：では、この案件も承認ということで、事務局で手続きを進めてください。

(4) 和気町 自家用有償旅客運送の登録更新の申請について

◇資料説明：事務局

◇質疑応答・意見

会 長：73 ページの運賃の文字が赤字になっているが、この意図は料金の改定か。

事 務 局：特に意図はない。

会 長：きちんと人が定期的に乗って移動しているということであった。では申請手続きを進めていくことに関して、承認いただける方は挙手にて意思表示をお願いいたします。

(一同挙手)

会 長：では、この案件も事務局で手続きを進めてください。

#### 4. その他

##### (1) デジタルサイネージの設置について

◇資料説明：事務局

◇質疑応答・意見

会 長：ちょうどこの建物の1階に設置されており、既に皆さん見ていらっしゃるかもしれない。今日の帰りに少し見ていただければイメージが掴めるかと思う。

##### (2) 岡山県パーソントリップ調査の概要について

◇資料説明：事務局

◇質疑応答・意見

会 長：県内全体でパーソントリップ調査をやるというのは聞いたことがなく、せいぜい都市圏でやるのが精一杯というところが多かった。岡山県が非常に熱心で、移動実態を把握していこうということだと思う。是非皆さんのところに調査票が来たら、必ず書いていただければと思う。結構面倒くさい調査票だと思うがよろしく願います。何かご意見やご質問はあるか。

委 員：今日、いろいろ市民バスやデマンドの調査結果が出て、費用対効果が非常に悪い状況ではありながら、必要なためにこういう計画が言われていますが、やはりボランティア輸送には限界があるか。ボランティア輸送もひとつのやり方としてはあるかと思うが、色々な問題があり全てができるわけではないと思うので、どういう特徴があるのかお聞きしたい。

事 務 局：赤磐市内にも地区社協でボランティアに取り組んでいるところがあるが、やはり高齢化が進み、新しく事業を続けていただける人を探されている状況である。事業の持続が難しくなっているのので、市の公共交通でサポートしてほしいという話を聞く。ボランティアを継続的にやっていくことは、どうしても無理があるかと思う。

委 員：法的には補償などはクリアしているのか。

事 務 局：それぞれ保険に入られて活動をされているようである。やはり人を乗せて運転をするので、事故等があったときには大変ということであった。

会 長：ありがとうございます。運輸支局や県では何かそういう情報はありますか。ボランティア有償輸送、有償でなくても構わないが。

委 員：やはり運送費としてお金を取る場合はボランティアではできない。ボランティア輸送は共助が基本であるので、お金を取ることができない。ボランティアというと聞こえは良いが、事務局からあったとおり、なり手の方の負担や車両の関係等で厳しいかと思う。運輸局としては既存の事

- 業者を最大限に活用していただきたい。
- 会 長：県内で推奨しているような雰囲気ではないかと思うが、自分たちでやっているというグループはいくつかあると理解している。県からは何かあるか。
- 委 員：私は自家用輸送を担当している関係もあり、ボランティア輸送をしたいというよりは、地域の人足に何かしたいということで相談に来られる方がいる。実費の範囲内でのボランティア輸送は法的にも整理されていて問題はないかと思うが、継続的に実施するにあたっての初期投資の車両購入や、運転をしていただくとなるとある程度の謝金が必要になる。そのあたりを継続的に考えていくと道路運送法上に自家用有償運送で実施をされる方向に行かれる方もいらっしゃる。自家用有償運送をしようとなると、ふたつ方法がある。福祉有償運送という利用者が限定されたものか、もしくは空白地有償運送というタクシーやバスがないような不便な地域でしかできないような制度があるので、ある程度限定されてしまう。そのあたりを整理して、県内でも特に県北などでされている。地域によっては市町村から車両の貸与や運行費の一部の支援をされているようなところもある。まずは既存のタクシー等を活用し、それでもどうしてもということであれば、ボランティアでされるか、法律で自家用有償という制度が認められているのでそれですかという形で相談を受けており、実際にされているところもある。もしも地域でそういった話があれば、一度ご相談いただければと思う。
- 会 長：パーソントリップ調査の概要についてというところの質問を今お受けしているが、よろしいか。資料の「パーソントリップ調査で県民の移動ニーズを把握し」というところに引っかかっている。移動ニーズを把握したいのか、移動実態を把握したいのか、混同しているのではないかという気がする。パーソントリップ調査で分かるのは移動実態だと思う。移動ニーズを聞こうとすると、本当は行きたかったけれど行けなかったというような、アンケート調査ベースになると思うが、これは両方やるイメージか。それとも、通常のパーソントリップ調査では移動実態が分かるというものだと思うが。
- 委 員：基本は実態を把握するものである。ニーズについてもアンケート形式でさせていただく。例えば自家用車で移動されている方で、時刻や便があれば公共交通で移動できるという方が類推されるので、そういったものについては実態から移動ニーズを類推するような形になると思う。
- 会 長：何かご質問等あれば県に問い合わせさせていただければと思う。

### (3) 赤磐市民バス山陽団地線車内飾り付け事業について

◇資料説明：事務局

◇質疑応答・意見

- 会 長：これは誰の絵がいつ出るか分かるか。
- 事 務 局：いえ、それは分からない。学校で子どもが描いた絵を1ヶ月に1回程度交換していく。
- 会 長：知り合いの子の絵が載っているときに見に行きたいときに、あの子の絵はこの時期に載るといった情報がホームページにでも載るといいと思う

た。あまり個人情報を出すのはまずいかもしれないが、そのあたりが気になった。

事務局：ずっと同じ絵を飾り付けするのではなく、コンスタントに交換していく。

会長：子ども達本人は自分の絵がいつから掲示されるか知っているのか。親戚の人とか近所の人にいつ掲示されるか伝えられるのか。

事務局：山陽団地線に掲載してくれるということは分かっていると思うが、自分の絵はいつ載るのかっていうことまでは分からない。

会長：教えてあげたらいいと思う。できればそういうことをしてあげていただきたい。

#### (4) その他

事務局：本日お手元に配布させていただいている赤磐市のまちづくりについて、情報提供である。赤磐市では、現在、立地適正化計画の策定を進めている。立地適正化計画は都市計画を中心にした計画で、これから策定を進めていく公共交通計画と相互に関係が深いものとなっている。新たなまちづくりとして賑わいと交流の場や交通結節点、子育て支援施設や商業施設などの機能を持たせて新たな拠点を形成し、既存の地域とつなぐことなどを盛り込むこととしている。このチラシは、今後、市のホームページで公開するとともに、広報あかいわにも折り込み、市民の皆様にお知らせする予定である。広報配布に先立ち、情報提供させていただく。今後は、公共交通計画策定においても、こういった都市計画の観点も考慮しながら策定していくことになるので、協議を行っていくこともあると思うが、どうぞよろしく願いいたします。

その他の資料につきましては、年に1回、年度初めに市民バスの時刻表を配らせて頂いている。こちらも広報にて配布させて頂いている。前回の会議には間に合っていなかったため、今回配らせていただいた。それから、最初にご紹介させていただいたが、移住パンフレットを政策推進課で前年度作成したので、お時間のあるときにご覧頂ければと思う。それから、ジオマップについて、これは赤磐市の吉井地域の旧備作高校跡地に地球史研究所という地質を研究するところがあり、こちらのご協力のもとこのマップを作成している。このマップに基づき、広報の記事に市民バスに乗って出かけましょう応用編ということで、地質に関連したような場所を巡りませんかという紹介記事を掲載している。それから、観光・グルメスタンプラリーについて、直接は関係ないが、1月31日までさせていただく。感染対策をしっかりとらして楽しみ頂ければということでご紹介させていただく。

会長：非常に多くの情報をいただき、最後に紹介して頂いたスタンプラリーは明日から、ぜひ周りの方にもお知らせ頂いて楽しんで頂ければと思う。私も行ったことのあるところもないところもたくさんあるので、参考にして赤磐市内を楽しみたいと思う。

## 5. 閉会

副会長挨拶